

総原委第3号

昭和31年1月24日

原子力委員 湯川秀樹殿

原子力委員会委員長 正力松太郎

才8回定例委員会の開催について

標記の委員会を下記により開催いたしますから御出席下さい。

記

1. 日時 昭和31年1月27日(金)午後1時
2. 場所 内閣総理大臣官邸
3. 議題

- (1) 原子力関係予算について
- (2) 原子力関係法律案について
- (3) 原子力産業会議の設置について
- (4) 原子力研究所の経過報告について

- (5) 国連科学委員会の代表代理、代表顧問の  
継遺について

一月二十七日 午後一時 定例委員会

出席 一 予算関係

二 板津宗

三 原子力産業会議所設立の件

四 原子力研究所長の報告

五 雑作

○ 出席料は不送であるが、上京の除にこらゆるが。  
○ 滞在の期間。

通札のこ。

京都大学理学部物理学教室

レ十、活米中の行

- 一、動力機<sup>実</sup>ケニ炉——運賃
- 二、原子力委員会の調査費
- 三、外人との交際費往來費
- 四、留学生の期間と人数
- 五、外人講師の俸給の算定方法
- 六、京大研究所の第百号(4月)モニタリニク
- 七、敷地のエスチメイトの基準
- 八、国際放射能科学者会議の随員の手
- 九、原子力研究の人事の手

基礎物理学研究所

1954. 11. 5,000 20×10

一月二十七日 定例原子力委員会

一、原子力法に關する件

人等

法務省

研究方針、部門等、同定方針 基礎研究

(長期の展望)を早く通達に立てるため、一時的

計画性を打ち出すための調査研究)

一、基本方針についての討議

三十二年予算案の閣議上、基本方針について

議論する機会が訪れたが、法律案も一先

成立し、この機会に今後の方針等について

議論が成る案に拘限せず、大面的に考え

中意がある。

→ 公社法人に於ける

基礎物理学研究所



(2)

てその返事を速に知らすようにして下さるが、この添付の  
 力研の既述 研究社へ所望の要請につき、各方面に  
 周知させること、一層努力してほしい。 （この添付の）  
 力研の既述を以て基礎的なデータと見做し、  
 2. 作り出す、即ち、外国のデータを以てし、  
 研究社へ送る。 （この添付の）

○ 一、核の基礎物理学的な、即ち、研究  
 ○ 二、核の基礎物理学的な、即ち、研究  
 ○ 三、生物学的な、即ち、研究  
 ○ 四、生物学的な、即ち、研究  
 ○ 五、核物理学的な、即ち、研究  
 ○ 六、核物理学的な、即ち、研究  
 ○ 七、核物理学的な、即ち、研究

（この添付の）

基礎物理学研究所

(13)

原子力研究所の運営方針

- 一、全般的に輸入を少なくして自給にできるものを中心とする。  
(力研の予算が不足に陥り、他の研究を圧迫することのないように注意する)
- 二、力研が原子力研究を独占しないように (国家や他機関との共同研究の推進)
- 三、力研がサテライトセンターとしてあり、基礎研究、応用研究、教育、普及、社会奉仕、産業の仕方には技術系、研究系、普及系の意見が充分に反映されるように
- 四、原子力技術の普及の意見が反映する
- 五、力研のメンバー (特に経済学、工学) の地域専門的知識を積極的に活用する
- 六、原子力技術の普及の問題

基礎物理学研究所